

1. 科目名 (単位数)	専門演習ⅡB (援助技術・実践研究) (2単位)		
2. 授業担当教員	【池袋】大山 勉、先崎 章、田代 幹康、立松 英子、田中 喜美子 【名古屋】伊東 眞理子、大山 勉、先崎 章、田代 幹康、立松 英子	3. 科目番号	SSMP6202
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	専門演習ⅠB (援助技術・実践研究) を履修済であること	履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	専門演習は、各研究分野ごとに、教員がチームティーチングで担当する科目である。専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰでの学びを基に、さらに受講者が各研究分野についての幅広い理解とともに、研究の方法論についても、実践的に理解することを目的とする。受講者には、授業内で提示される課題に積極的に取り組み、自らの研究能力を高めていくことが求められる。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> これまでの研究の蓄積から学んだことを基にして、自らの研究計画を立てることができる。 論文作成における課題の設定や先行研究レビューなどの方法について理解し、作成できる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業内で指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業内で指示、または各回に示されている 【参考書】 授業内で配布、または各回に示されている		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 「8. 学習目標」を達成することができたかどうかを基準に判断する ○評定の方法 授業内での課題への取り組み 50% 自らの研究についての授業での発表 50%		
12. 受講生へのメッセージ	児童、障害者、高齢者などの領域の研究論文を作成する予定の人に受講をしてほしい。 5人の教員が6回ずつ担当して行く。		
13. オフィスアワー	各教員が授業内で知らせる		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション、Evidence-Based Practice (EBP) Process、ソーシャルワーク援助過程における援助関係の形成の意義と技術 (田中、伊東)		
【学習の目標】	ソーシャルワーク援助過程における援助関係の形成の意義・重要性とその基本的スキル (傾聴・共感・受容・非審判的態度等) を理解する。		
【学習の内容】	ソーシャルワーク援助過程における援助関係の形成の意義・重要性とその基本的スキル (傾聴・共感・受容・非審判的態度等) について考察する。		
【キーワード】	ソーシャルワーク援助過程における援助関係の形成、傾聴、共感、受容、非審判的態度		
【学習の課題】	ソーシャルワーク援助過程における援助関係の形成の意義・重要性とその基本的スキル (傾聴・共感・受容・非審判的態度等) を、自己の経験 (ソーシャルワーク実践を含む) の自己開示に基づくディスカッションを通して批判的に考察する。		
【参考文献】	授業内で知らせる。(文献検索課題)		
【学習する上での留意点】	ディスカッションへの積極的参加が重要。		
2. テーマ	援助関係形成のスキル (共感) に関する文献研究 (田中、伊東)		
【学習の目標】	「共感」の定義と「共感」を高める (低める) 要因、「共感」の結果に関する文献を批判的に理解する。		
【学習の内容】	「共感」の定義と「共感」を高める (低める) 要因、「共感」の結果について、文献を通して批判的に考察する。		
【キーワード】	共感、共感の要因、共感のアウトカム		
【学習の課題】	「共感」の定義と「共感」を高める (低める) 要因、「共感」の結果についての文献を発表・批判的にディスカッションする。		
【参考文献】	授業内で知らせる。(文献検索課題)		
【学習する上での留意点】	プロフェッショナルな口頭発表とディスカッションへの積極的参加が重要。		
3. テーマ	共感のスキルを高めるためのプログラムの開発 (計画) (田中、伊東)		
【学習の目標】	共感のスキルを高めるためのプログラムを開発する。		
【学習の内容】	共感のスキルを高めるためのプログラムをブレインストーミング・考案する。		
【キーワード】	共感、プログラム開発、ブレインストーミング		
【学習の課題】	共感のスキルを高めるためのプログラムをグループでブレインストーミング・考案する。		
【参考文献】	授業内で知らせる。		
【学習する上での留意点】	グループプロジェクトへの積極的参加が重要。		
4. テーマ	共感のスキルを高めるためのプログラムの開発 (報告) (田中、伊東)		
【学習の目標】	開発した共感のスキルを高めるためのプログラムを発表し、修正する。		
【学習の内容】	開発した共感のスキルを高めるためのプログラムをグループで発表し、フィードバックを与える。		
【キーワード】	共感、プログラム開発		
【学習の課題】	共感のスキルを高めるためのプログラムをグループで発表し、他のグループからのフィードバックを基に修正する。		
【参考文献】	授業内で知らせる。		

	【学習する上での留意点】 グループディスカッションへの積極的参加が重要。
5. テーマ	共感のスキルを高めるためのプログラムの開発（実行・実験）（田中、伊東）
【学習の目標】	開発した共感のスキルを高めるためのプログラムを実行（実験）し、評価（測定）する。
【学習の内容】	開発した共感のスキルを高めるためのプログラムを実行（実験）し、評価（測定）する。
【キーワード】	共感、プログラム開発（評価）
【学習の課題】	共感のスキルを高めるためのプログラムをグループで発表し、評価を基に修正する。
【参考文献】	授業内で知らせる。
【学習する上での留意点】	実験・グループディスカッションへの積極的参加が重要。
6. テーマ	課題（「共感」を高めるプログラム開発）のパワーポイントプレゼンテーション（田中、伊東）
【学習の目標】	課題（「共感」を高めるプログラム開発）をパワーポイントでプレゼンテーションする。
【学習の内容】	「共感」を高めるプログラム開発をパワーポイントでプレゼンテーションする。
【キーワード】	共感、プログラム開発、パワーポイントプレゼンテーション
【学習の課題】	「共感」を高めるプログラム開発をパワーポイントでプレゼンテーションし、発表の内容（プログラム）と発表の仕方についてのフィードバックを共有する。
【学習する上での留意点】	パワーポイントプレゼンテーションの技術を習得する。プレゼンテーションへの積極的参加（視聴者としても）が重要。
7. テーマ	ノーマライゼーションの理念・実践に関する文献の要約・先行研究等としての小論文の作成①（田代）
【学習の目標】	IBでは、ノーマライゼーションの理念の歴史の変遷と理念のいくつかの視点について学んだが、II Bでは、それらを理解したことを踏まえ、論文作成に向けての要約や先行研究等としての小論文の作成を行う。
【学習の内容】	教員より提供されたり各自が収集した各文献・資料を論文の執筆方法にもとづいて要約・先行研究として作成する。
【キーワード】	ノーマライゼーション、ノーマライゼーションの8つの要因、脱施設化
【学習の課題】	ノーマライゼーションの歴史の展開の概要について論文の執筆方法にもとづいて小論文を作成する。
【参考文献】	①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年
【学習する上での留意点】	収集した文献を正しい形で参考・引用し論文を作成することは重要なことなので必ず身につけてほしい。
8. テーマ	ノーマライゼーションの理念・実践に関する文献の要約・先行研究等としての小論文の作成②（田代）
【学習の目標】	IBでは、ノーマライゼーションの理念の歴史の変遷と理念のいくつかの視点について学んだが、II Bでは、それらを理解したことを踏まえ、論文作成に向けての要約や先行研究等としての小論文の作成を行う。
【学習の内容】	教員より提供されたり各自が収集した各文献・資料を論文の執筆方法にもとづいて要約・先行研究として作成する。
【キーワード】	Social Role Valorization、北欧型、北アメリカ型
【学習の課題】	北欧型・北アメリカ型のノーマライゼーションの相違点について、論文の執筆方法にもとづいて小論文を作成する。
【参考文献】	①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年
【学習する上での留意点】	収集した文献を正しい形で参考・引用し論文を作成することは重要なことなので必ず身につけてほしい。
9. テーマ	コミュニティワークの歴史の変遷に関する文献の要約・先行研究等としての小論文の作成（田代）
【学習の目標】	IBでは、コミュニティワークの歴史・理論・実践について学んだが、II Bでは、それらを理解したことを踏まえ、論文作成に向けての要約や先行研究等としての小論文の作成を行う。
【学習の内容】	教員より提供されたり各自が収集した各文献・資料を論文の執筆方法にもとづいて要約・先行研究として作成する。
【キーワード】	コミュニティワーク、COS、セツルメント
【学習の課題】	コミュニティワークの歴史の変遷について、正しく引用し、論文の執筆方法にもとづいて小論文を作成する。
【参考文献】	①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年 ⑤松永俊文・野上文雄編著 『現代コミュニティワーク論』 新版 中央法規 2004
【学習する上での留意点】	収集した文献を正しい形で参考・引用し論文を作成することは重要なことなので必ず身につけてほしい。
10. テーマ	コミュニティワークの理論に関する文献の要約・先行研究等としての小論文の作成（田代）
【学習の目標】	IBでは、コミュニティワークの歴史・理論・実践について学んだが、II Bでは、それらを理解したことを踏まえ、論文作成に向けての要約や先行研究等としての小論文の作成を行う。
【学習の内容】	教員より提供されたり各自が収集した各文献・資料を論文の執筆方法にもとづいて要約・先行研究として作成する。
【キーワード】	ニーズ・資源調整説、インターグループワーク説、地域組織化説
【学習の課題】	コミュニティワークの理論について、正しく引用し、論文の執筆方法にもとづいて小論文を作成する。
【参考文献】	①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年

⑤松永俊文・野上文雄編著 『現代コミュニティワーク論』 新版 中央法規 2004	
【学習する上での留意点】 収集した文献を正しい形で参考・引用し論文を作成することは重要なことなので必ず身につけてほしい。	
1 1 . テー マ	エコロジカルアプローチの理論に関する文献の要約・先行研究等としての小論文の作成 (田代)
【学習の目標】	IB では、エコロジカルアプローチの理論・実践について学んだが、II B では、それらを理解したことを踏まえ、論文作成に向けての要約や先行研究等としての小論文の作成を行う。
【学習の内容】	教員より提供されたり各自が収集した各文献・資料を論文の執筆方法にもとづいて要約・先行研究として作成する。
【キーワード】	ジャーメイン、ジェルグラム、エコマップ
【学習の課題】	エコロジカルアプローチの理論について、正しく引用し、論文の執筆方法にもとづいて小論文を作成する。
【参考文献】	①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』 ミネルヴァ書房 2011年
【学習する上での留意点】 収集した文献を正しい形で参考・引用し論文を作成することは重要なことなので必ず身につけてほしい。	
1 2 . テー マ	7～11回の総括 (田代)
【学習の目標】	田代が担当した授業、7～11回にて学び、作成した小論文についての総括と評価を行う。
【学習の内容】	各自が作成した小論文に関し、正しい執筆方法にもとづいて作成されたか、また不備な点について検討する。
【キーワード】	論文チェックリスト、注及び文献の表記、引用法等
【学習の課題】	これまで作成した論文が正しく引用され、論文の執筆方法にもとづいて小論文が作成されたかを検証する。
【参考文献】	日本社会福祉学会執筆要領
【学習する上での留意点】 収集した文献を正しい形で参考・引用し論文を作成することは重要なことなので必ず身につけてほしい。	
1 3 . テー マ	障害者の支援と研究 (身体障害者) (先崎)
【学習の目標】	IB では身体障害者 (脳卒中、外傷性脳損傷) の支援、実践方法について学んだが、II B では、それらを理解したことを踏まえ、論文作成について学習する。
【学習の内容】	(1) 支援方法・アプローチについて (2) 実践を症例研究とするためにどういう視点をもつべきか
【キーワード】	リハビリテーション、障害の受容、障害への適応
【学習の課題】	事例を通じて実践方法について検討する。
【参考文献】	先崎章『精神医学・神経心理学的対応 リハビリテーション』 医歯薬出版 2011年
【学習する上での留意点】 適宜プリントを配布する。学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。	
1 4 . テー マ	障害者の支援と研究 (精神障害者) (先崎)
【学習の目標】	IB では身体障害者と精神障害の合併事例を通してその支援、実践方法について学んだが、II B では、それらを理解したことを踏まえ、論文作成について学習する。
【学習の内容】	(1) 支援方法・アプローチについて (2) 実践を症例研究とするためにどういう視点をもつべきか
【キーワード】	自殺未遂、偏見、地域での生活
【学習の課題】	事例を通じて実践方法について検討する。
【参考文献】	先崎章『精神医学・神経心理学的対応 リハビリテーション』 医歯薬出版 2011年
【学習する上での留意点】 適宜プリントを配布する。学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。	
1 5 . テー マ	高齢者 (含む認知症者) や脳損傷者とその家族支援 (先崎)
【学習の目標】	IB では高齢者、認知症者、脳損傷者 (高次脳機能障害) の事例を通してその支援、実践方法について学んだが、II B では、それらを理解したことを踏まえ、論文作成について学習する。
【学習の内容】	(1) 医療的アプローチ、社会福祉的アプローチの違いについて (2) 実践を症例研究とするためにどういう視点をもつべきか
【キーワード】	アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、外傷性脳損傷、脳卒中、地域包括ケアシステム
【学習の課題】	事例を通じて実践方法について検討する。
【参考文献】	森本榮 編『高齢者の理学療法 第2版』 三輪書店 2011年 日本認知症ケア学会編『改訂5版 認知症ケアの実際II各論』 ワールドプランニング 2016年 先崎章『高次脳機能障害 精神医学・心理学的対応ポケットマニュアル』 医歯薬出版 2009年
【学習する上での留意点】 適宜プリントを配布する。学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。	
1 6 . テー マ	精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究 (先崎)
【学習の目標】	IB では精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究から、支援・援助の実践をどう行うべきなのか学んだが、II B では、それらを理解したことを踏まえ、同テーマについての論文化を学習する。
【学習の内容】	精神障害者へのスティグマ、偏見の本質はなにか、これまで各国でどのような研究がなされてきたか。
【キーワード】	エビデンス、スティグマ、機会主義、社会統制
【学習の課題】	過去の精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究を前提に、どのような研究が行いうるかを把握する。
【参考文献】	ノーマン・サルトリウスら著『パラダイム・ロスト』 中央法規 2015年 (先崎章訳 第6章7章、スティグマ経験についての質問票)
【学習する上での留意点】 適宜プリントを配布する。学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。	
1 7 . テー マ	精神障害者 (障害者一般) へのスティグマ、偏見についての研究 (今後の支援や研究の在り方) (先崎)
【学習の目標】	16回目の内容をさらに障害者一般に広げて学習する。
【学習の内容】	今後、障害者へのスティグマ、偏見について実践・研究を行うときにどのような方法があり、視点を持つべきか。
【キーワード】	スティグマ、機会主義、社会統制、克服するプログラム、マスメディア

【学習の課題】	過去の精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究を通して、当事者を支援する研究の在り方を学ぶ。
【参考文献】	ノーマン・サルトリウスら著『パラダイム・ロスト』中央法規 2015年 (先崎章訳 第6章7章、スティグマ経験についての質問票)
【学習する上での留意点】	適宜プリントを配布する。学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。
18. テーマ	医療・保健分野の支援・研究手法を社会福祉分野の支援・研究に生かす (先崎)
【学習の目標】	IBでは、社会福祉分野の研究手法と医療・保健分野の研究手法との共通点、異なる点とを学んだ。II Bでは、それらを理解したことを踏まえ、各自の研究内容を論文化してみる。
【学習の内容】	「研究入門」「論文に多用される多変量解析法」「健康関連 QOL 評価法」等
【キーワード】	「研究入門」先行研究、研究の質、選択バイアス、測定バイアス、新規性 (オリジナリティ)、実現可能性、研究構想、研究課題と仮説、対象と方法、横断研究、縦断研究、観察研究、介入研究、質的研究、量的研究、信頼性と妥当性、標準化尺度、多変量解析、因果関係、プログラム評価。「統計解析」各種解析方法。「健康関連 QOL 評価法」SF-36、SF-12、CIQ 等
【学習の課題】	各自の研究内容をどう客観的、論理的に表現するか。
【参考文献】	雑誌「総合リハビリテーション」(医学書院) 2016年号1月号～12月号に連載された「研究入門」近藤克則氏執筆。等
【学習する上での留意点】	適宜プリントを配布する。学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。
19. テーマ	障害者研究における倫理的配慮 (立松)
【学習の目標】	支援を必要とする人々を対象とした調査研究における研究倫理を身に付ける。
【学習の内容】	社会福祉士や臨床心理士が求められる研究倫理を各種倫理綱領から学ぶ。
【キーワード】	倫理綱領、倫理的配慮、個人情報保護、心理学的アプローチ
【学習の課題】	社会福祉士や臨床心理士などの倫理綱領を読み、共通して求められる研究姿勢について各自の考えをまとめる。
【参考文献】	社会福祉士倫理綱領、臨床心理士倫理綱領、臨床発達心理師倫理綱領、東京福祉大学科学研究における行動規範他
【学習する上での留意点】	各自の研究デザインに照らして必要事項を取り入れる。
20. テーマ	障害者研究における心理学的視点 (立松)
【学習の目標】	支援を必要とする事例への対応や研究における心理学的視点を身に付ける。
【学習の内容】	行動の評価や記述の仕方を演習を通して学ぶ。
【キーワード】	診断、評価、実態把握、質的研究、行動評価尺度 (Vineland II 適応行動尺度等)
【学習の課題】	質問紙法による行動評価の集計やその解釈について演習する。
【参考文献】	Vineland II 適応行動尺度面接フォーム、マニュアル
【学習する上での留意点】	対象の行動を尺度化する際のルールやマナーがあることに留意する。
21. テーマ	行動障害に関する研究の今日的動向 (立松)
【学習の目標】	知的障害や自閉スペクトラム症の行動障害についての研究の歴史や今日的動向を知る。
【学習の内容】	睡眠障害や自傷、他害、かんしゃく、鬱など、知的障害や自閉スペクトラム症に起こりやすい状況と精神医学・心理学的アプローチについて、先行研究を通して学ぶ。
【キーワード】	知的障害、自閉スペクトラム症、行動障害、challenging behavior, DSM-5, icd-10
【学習の課題】	キーワードについて予め調べておき、授業で発表する。
【参考文献】	児童青年精神医学と近接領域、発達障害研究、Journal of Autism and Developmental Disorders ほか
【学習する上での留意点】	文献の内容理解とともに、論文の書き方について学ぶ。
22. テーマ	障害者を支える福祉や教育の今日的動向 (立松)
【学習の目標】	専門演習 IB で学んだ内容を深める。子どもや家庭支援、教育における政策の現状と課題を知る。
【学習の内容】	病気や障害のある子どもの誕生から就学、就労までを見通して、日本の政策の現状と課題を探る。
【キーワード】	インクルーシブ教育、学校制度、児童精神医学、就労支援事業、障害者雇用促進法、手帳制度
【学習の課題】	以下の文献から抜粋して予め配布された文献について調べておき、授業で発表する。
【参考文献】	発達障害白書 2016年版-2020年版、児童青年精神医学と近接領域、発達障害研究ほか
【学習する上での留意点】	文献の内容理解とともに、論文の書き方について学ぶ。
23. テーマ	障害者を支えるテクノロジー (立松)
【学習の目標】	専門演習 IB で学んだ内容を深める。障害者を支える情報通信技術 (ICT) や支援機器の具体例を知る。
【学習の内容】	障害の種類や程度、年齢等によって異なる支援機器、災害時に役立つ多様なテクノロジーについて学ぶ。
【キーワード】	ICT、IoT、介護ロボット、AAC、音声伝達システム、歩行支援機器、パルスオキシメーター
【学習の課題】	ICT、IoT は様々なテクノロジーの総称である。具体的にどのようなものがあるか調べておく。
【参考文献】	坂村健『IoT とは何か 技術革新から社会革新へ』角川新書 2016
【学習する上での留意点】	近年、福祉の現場では人手不足を補うだけでなく、体調管理や災害時の被害を最小限にするテクノロジーの研究開発も進んでいる。一方で、情報弱者と活用者との格差の広がりや、個人情報の保護をどうするかなどの課題も存在する。都市インフラの整備には、理念に基づく政策が必要である。様々な観点から個別性の高い障害者支援の可能性を探っていく。
24. テーマ	障害者の QOL 向上に対する福祉分野の取組み (立松)
【学習の目標】	専門演習 IB で学んだ内容を深める。障害児者の日中活動や住まい、地域生活における現場の取組みを知る。
【学習の内容】	用語の定義や対象者の記述のしかた、トータルな支援に必要な視点、個別の支援計画作成のポイント
【キーワード】	個別の支援計画、放課後等デイサービス、サービス管理者
【学習の課題】	参考文献の関係分野 (医療、地域生活支援、権利擁護/本人活動、文化、社会活動、国際動向) から、興味のある話題や論文を選んでレポートし、ディスカッションする。
【参考文献】	発達障害白書 2016年版-2020年版、児童青年精神医学と近接領域、発達障害研究ほか

	【学習する上での留意点】 文献の内容理解とともに、論文の書き方について学ぶ。
25. テーマ	論文作成における研究上の問い (Research Question) と課題・仮説の設定① (大山)
	<p>【学習の目標】 論文作成に必要な研究の背景 (Research Question を含む) と研究仮説の設定について再考する。</p> <p>【学習の内容】 上記について、学会誌に掲載された論文または受講者の論文を見直し、ディスカッションを行う。</p> <p>【キーワード】 研究上の問い (Research Question)、仮説</p> <p>【学習の課題】 専門演習 I B で学んだことの復習と各自の修士論文の質の向上を意識して臨むこと。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布</p> <p>【学習する上での留意点】 専門演習 I B での学習をさらに進化させ、よりよい修士論文作成の力を身につけてほしい。</p>
26. テーマ	論文作成における研究上の問い (Research Question) と課題・仮説の設定② (大山)
	<p>【学習の目標】 論文作成に必要な研究の背景 (Research Question を含む) と研究仮説の設定について再考する。</p> <p>【学習の内容】 上記について、学会誌に掲載された論文または受講者の論文を見直し、ディスカッションを行う。</p> <p>【キーワード】 研究上の問い (Research Question)、仮説</p> <p>【学習の課題】 専門演習 I B で学んだことの復習と各自の修士論文の質の向上を意識して臨むこと。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布</p> <p>【学習する上での留意点】 専門演習 I B での学習をさらに進化させ、よりよい修士論文作成の力を身につけてほしい。</p>
27. テーマ	受講者の論文の先行研究レビューの再考① (大山)
	<p>【学習の目標】 先行研究レビューの書き方についての理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 論文作成における先行研究レビューの方法を再検討する。</p> <p>【キーワード】 先行研究レビュー</p> <p>【学習の課題】 専門演習 I B で学んだことの復習と各自の修士論文の質の向上を意識して臨むこと。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の論文を参考にすることにより、各自の論文をさらに良いものにする。</p>
28. テーマ	受講者の論文の先行研究レビューの再考② (大山)
	<p>【学習の目標】 先行研究レビューの書き方についての理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 学会誌に掲載された論文もしくは受講者が執筆中のものなど、先行研究レビューの具体例を検討する。</p> <p>【キーワード】 先行研究</p> <p>【学習の課題】 専門演習 I B で学んだことの復習と各自の修士論文の質の向上を意識して臨むこと。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の論文を参考にすることにより、各自の論文をさらに良いものにする。</p>
29. テーマ	受講者の修士論文概要をプレゼンテーション① (大山)
	<p>【学習の目標】 プレゼンテーション技術の向上、他の人の発表へのコメント力を身につける。</p> <p>【学習の内容】 担当者は事前にプレゼンテーション準備をし、他の受講者は発表へのコメントやディスカッションを行う。</p> <p>【学習の課題】 専門演習 I B で学んだことの復習と各自の修士論文の質の向上を意識して臨むこと。</p> <p>【参考文献】 発表者のプレゼンテーション資料</p> <p>【学習する上での留意点】 発表担当者はレジユメを準備しプレゼンテーションを行う。</p>
30. テーマ	受講者の修士論文概要をプレゼンテーション② (大山)
	<p>【学習の目標】 プレゼンテーション技術の向上、他の人の発表へのコメント力を身につける。</p> <p>【学習の内容】 担当者は事前にプレゼンテーション準備をし、他の受講者は発表へのコメントやディスカッションを行う。</p> <p>【学習の課題】 専門演習 I B で学んだことの復習と各自の修士論文の質の向上を意識して臨むこと。</p> <p>【参考文献】 発表者のプレゼンテーション資料</p> <p>【学習する上での留意点】 発表担当者はレジユメを準備しプレゼンテーションを行う。</p>